



ADRC Highlights Vol.100

Asian Disaster Reduction Center Biweekly News

September 1, 2004

➤ 国際防災オープンフォーラムを8月24日、皇太子殿下ご臨席のもと開催

アジア防災センター(ADRC)は、内閣府、国連大学(UNU)、国連国際防災戦略(ISDR)事務局および国連開発計画(UNDP)との共催、また日本放送協会(NHK)、米国国際開発庁(USAID)、兵庫県の後援により、第3回国際防災オープンフォーラム「大災害からの復興～万人のためのより安全な世界へ向けて～防災の日(9月1日)と防災週間(8月30日～9月5日)に考える」を8月24日、東京の国連大学にて開催しました。

このフォーラムは、前2回のもと同様、2005年1月に兵庫県神戸市で開催される「国連防災世界会議」へ向けて、国際防災協力の必要性について関心を高めるために開催したもので、当日は皇太子殿下のご臨席を賜るなど、250名を超える参加者がありました。



ファン・ヒンケル国連大学学長、井上防災担当大臣、北本 ADRC 所長の開会あいさつに続き、講演の部では、国連国際防災戦略事務局のヘレナ・モリン・ヴァルデス次長による基調講演「国連防災世界会議～防災に関する新しい道しるべ～」がなされ、パテル・シアトル・リサーチセンターのパトリシア・ボルトン主任



科学者による「災害からの復興～より迅速に、より適切に、より安全に?」、UNDP 危機予防復興支援局 南・南西アジア地域防災アドバイザーのカマル・キショア氏による「バム地震の課題～より安全な社会づくりに向けた計画～」、内閣府大臣官房の原田正司審議官(防災担当)による「災害に強い社会に向けた復興と再建～日本の経験から～」、UNDP 危機予防復興支援局 防災ユニットチーフのアンドリュウ・マスキリー氏による「持続可能な復興～災害を発展のきっかけに」と題した発表があり、参加者は災害復興の現状と課題について理解を深めました。

引き続き、この5名の講師が加わって行われたパネルディスカッションでは、富士常葉大学の重川希志依教授がコーディネーターを務め、災害からの復興の現状と課題について活発な議論を交わしました。議論

の中で、効果的な防災やより安全な地域づくりのためには、災害の復興の経験や教訓を広く共有していくデータベースや国際協力の枠組みの構築などが必要であることが指摘されました。なお、この件についての詳細は、主任研究員の角崎(tsunozaki@adrc.or.jp)までお願いします。

➤ 第11回 TIEMS 会合がオーストラリア・メルボルンにて開催 ADRC が参加・発表

2004年5月18-21日、アジア防災センター(ADRC)のカウンターパートであるオーストラリア緊急事態省(EMA)が支援を行う国際危機管理協会(TIEMS)の第11回年次会合がオーストラリア・メルボルンにて開催、当センターが参加・発表しました。

この会議では、オーストラリア連邦および各州政府の危機管理担当者他が参加し、開発途上国における災害被害の現状や防災を開発計画へ取り入れる方策について議論が交わされました。



当センターからは、研究員のスリガウリ・サンカルが参加、「緊急危機管理：文化的・地理的差異」について発表を行いました。サンカルは発表の中で、人間開発や高齢化の問題、経済の発展、災害による影響などを中心に論点をまとめ、ジェンダー問題についても触れました。また、災害は脆弱性が自然災害に直面した時に発生するものと強調したうえで、防災を開発の新たな枠組みの手段として組み込むためには、ADRC 提唱の TDRM アプローチが有効であると紹介しました。そして、「災害予防の文化の普及推進とコミュニティ間におけるリスクに対する認識のギャップ」、「防災の枠組みと国連ミレニアム開発目標への同時進行」「防災への投資」についても、言及しました。

当会議については、自然災害と災害が持続可能な開発に与える影響について活発な議論がなされました。

会議終了時には、EMA の長官であるデイビッド・テンブルマン氏により閉会が宣言され、4日間の会議で議論された主要課題について再度取り上げられました。また、EMA が 2005 年 1 月の国連防災世界会議に参加する旨を表明し、また同世界会議における ADRC の役割の重要性についても取り上げていただきました。この件につきましても、サンカル(sankar@adrc.or.jp)までお問合せいただくか、www.tiems.orgをご参照ください。